

第11回研究会

平成18年12月1日(金)午前9時30分
市役所本庁舎2階 大会議室

主な内容

協働のルール・指針に係る論点整理：協働の具体的課題について

これまで研究会では、「協働の理念・イメージ・目的」について研究会内でのワークショップを始めいろいろ議論・整理をし、「協働の基本的な考え方(案)：江南市戦略計画基本構想」として合意しましたが、協働の具体的課題については、まだ議論されていないところでした。 **市民協働研究会 これまでの意見の整理**

今回から、NPO・ボランティアグループとの意見交換会も踏まえ、実際に協働を進めていこうとする場面・場合に直面する課題・障害などについて、協働のルール・指針に係る論点整理の一つとして具体的に議論を進めていきます。

この場合も、理念の議論と具体論を全く切り離して考えるのではなく、必要に応じて相互にフィードバックさせながら議論を進めて行こうということになりました。

[問題点] 今は、地域の中の人間関係が崩れている。隣の人は何をしているのかわからないことが多い。支え合い、助け合いができていない。そのため孤独死という悲惨なことも起こる。年を取ると、地域が第二の家庭になることをわかってもらわないといけない。



隣近所のつながり(地域の連帯)をどうつくっていくか？
あまり関わりを持ちたくない人をどうするか？



地域の連帯をつくるために、防犯や防災などの取り組みを協働で進めていくことが必要だ。その手段を考えなければならない。

NPOやボランティアグループが市と市民との橋渡し役となって、無関心な人にも地域づくりへの参加を促していくことが必要である。



このためには、そうした団体を積極的に評価するシステムが必要である。

個人の自主的な活動が「自治」につながる。自主的な活動は、自分が住んでいるところで出来ることから先ず取り組むことが必要で、押し付けではなく、自分が出来ることを協働する中で「自治」が高まってくる。

将来、自分が介護を必要とする身になることをなかなかイメージできない。「老い」を学習することによって、地域づくりの必要性に気付くことができる。

地域のつながりをつくるために、意見交換会で提案されていた「地域通貨」(例えば、福祉ポイント)のシステムが有効ではないだろうか。これなら事業者にも参加してもらえる。

協働を進めるための芽はあると思うが、リーダーシップを発揮できる人がいない、また発揮できる環境がないのではないか。生涯学習的なことも必要ではないだろうか。

「協働」は「対等な関係」で進めるものであるので、協働を考える上で“リーダー”という立場はなじまないのではないか。協働は“リーダー”に付いていけばよいという考え方ではいけない。

今回は『地域のつながりをどうつくっていくか』ということが議論の中心になりました。このことに関しては、例えば「地域通貨」を導入して『地域のつながりをつくる』というように、新しい事業を取り入れることによって解決できることもある一方で、現在の“しくみ”が協働を進めて行こうとする場合の障害になっていることもある。これを解決していくために“ルール”が必要なのですということを確認しました。